

紙面から

教育随想

「乙川を大切にしよう」

ヘルシンキオリンピック

百米自由形銀メダリスト

岡崎水泳協会顧問

鈴木 弘氏

羅針盤

「伝わる心」

国語科指導員 菅沼 健

この人に聞く

人形師 栗生 正樹氏

特集

「岡崎市の鳥 ハクセキレイ」

ふれあい

「心をつなぐひも」

大樹寺小学校 鈴木 孝広

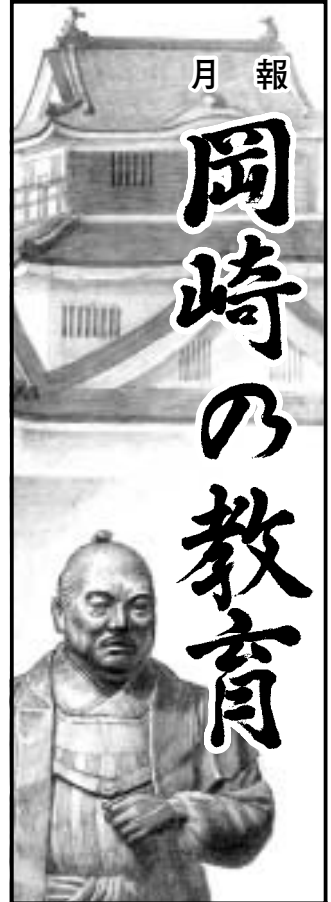
師弟同行

元男川小学校教務主任 中根 洋

岩津小学校 今井 久子

フォト・ヒストリー岡崎の教育

戦火の合間の運動会(昭和十九年)



12月号

平成12年12月1日

発行/編集  
岡崎市教育委員会



炭焼き



今月の学校紹介  
～河合中学校～



お茶の木の植樹



自然に親しみ、自然に学ぶ

## — 教育随想 —



## 乙川を大切にしよう

ヘルシンキオリンピック  
百米自由形 銀メダリスト  
岡崎水泳協会 顧問

鈴木 弘

日本中に夢と希望と感激を与えてくれたシドニーオリンピックも、九月末、次回開催国ギリシャのアテネへとオリンピック旗が手渡され、その幕を閉じた。

開催中テレビ等で放映される日本選手の活躍する姿を見ながら、四十八年前に私が出場したヘルシンキ大会を思い出しつつ、夢中になって声援を送った。今大会での日本選手の活躍は過去のどの大会よりもすばらしく輝いていたと感じたのは、私だけではないと思う。

そのオリンピックの興奮もさめ切らない十月上旬、友人達四名で市内を流れる乙川をカヌーで下る事に挑戦した。

その動機は私に泳ぐ事を教えてくれ、選手として育ててくれたこの乙川（当時は大平川、菅生川）の現在の姿に身近に触れてみたかったからだ。河合中学付近から川に入り二人一組の交代で組立式カヌーに乗り込み出発。最終目的地は岡崎公園の潜水橋までの約十キロメートル。途中五ヶ所に堰があり、その都度カヌー

を引っぱったり、肩に担いだり悪戦苦闘。これが又楽しい。約三時間の行程で無事目的地に到着。

出発してしばらくは、川の水のきれいに驚かされる。川底の小粒の砂の一粒一粒がくっきりと見える。種類はわからないが小魚が黒くなるほど群れている。又五、六十センチメートルもある大きな魚も時々泳ぎ去る。

川岸の木々が両側から生い茂り騒音もどかず、場所によっては秘境の中にいるような感じさえする。川の流れる時には穏やかに、時には急流となり、スリルに満ち、アドベンチャー気分浸らせてくれる。

東名高速道路の下を抜け龍宮、丸岡橋から大平橋辺りは鷺のコロニー。兩岸の木々に白い大きな花が咲いたように澤山の鷺、青鷺、五位鷺、大鷺、中鷺、小鷺、他にも幾種類もの鳥達。もっとも感激したのは、空飛ぶ宝石と云われる翡翠（カワセミ）が幾度も見られたこと。

御用橋付近から市街地に近付き、目に入る景色も少しずつ変わって

る。人工的な護岸、生活ゴミが川岸に集まり、川の水もやや透明度が悪くなり始める。多くの人達が生活をしているのだから止むを得ないとは思いますが悲しくなる。

しかし、想像していた乙川より遙かにきれいな川になっていたのには救われる想い。

数年前までは水も汚れ、濁り、魚の姿も少なくなつたと聞いていた乙川が、人々の努力で、こんなにその姿を回復しつつあることに感激する。人の生活で最も大切なものは水。水に必要なものは樹木。木々が伐採されれば、すぐに水が悪くなる。

岡崎水泳協会では、水の尊さ、ありがたさを子供達により知ってもらいたいと、三年前より植樹を行ってある。矢作川の上流に林業の専門家の指導のもと、桂、樺、山桜の苗木を植え付け、自らの名札をつけ、年三回の下草刈りを行っている。毎回百名以上の子供達が参加し、自らの植えた苗木の成長を楽しみにしている。この運動の輪が広がれば、より一層川の水は生きてくる。

水面におり、川岸を見上げ、水にふれ、音を聞き、風を感じ、みんなが気付かない、こんな身近な所に、こんなすばらしい自然があることを、もっと多くの人々に気付いてもらいたい。何もしなければ、又もとの魚達も、鳥達も住まない川になってしま

うから。  
(すずき ひろし)

## 伝わる心

国語科指導員

菅沼 健



総合的な学習の時間で、学区の小学校への職場体験をした中学三年生の男子二人のもとへ、小学校一年生の児童から、「お兄ちゃん、手品をしてくれてとても楽しかったよ。遊んでくれてありがとう」という手紙が届いた。そして、三年生全員の前で、担当の先生より披露され、手渡された。手紙を手にした生徒のうれしそうな、そして恥ずかしそうな表情が何とも言えなかった。それは、お互いの優しさが伝わり合った瞬間だった。

これは、S中で総合的な学習の時間のまとめとして、学年集会を開いたときの一場面である。見守っていただけれど心温まる思いを持ったことと思われる。

M小の訪問では、二つの作文の授業を参観した。一つは、学校祭に養護学校の子供たちを招待するための

ふるさとシリーズ  
**この人に聞く**



人形師

栗生 正樹 氏

旧東海道。藤川の松並木に沿って郷愁をかりたてるような家並みが続く。その中に人形師栗生正樹さんのご自宅があった。歴史ある町にふさわしく伝統を受け継ぐ人形師。職人というと気難しい印象があるが、取材にこたえてくださる栗生さんは、冗舌で気さくな方であった。

最初に、人形師になったきっかけをお伺いした。

「手に職をということで中学を卒業すると同時に修業に出ました。必死に修業し、二十二歳の時に独立しました。このような修業を受け

たのは自分が最後だと思っています。言わば最後の職人です。」

栗生さんと同じころに独立し、人形師となった方は、現在ほとんど職を辞したそう。愛知県下でも人形師は十名ほどにすぎないという。

「結局自分を管理することが難しいのです。こうした仕事の場合、怠けようと思えばいくらでも怠けられます。逆に努力しようと思えば、いくらでもできます。自分に厳しくなければ生き残れないのです。」  
これまでの長い人形作りの生活の中で、満足した仕事ができたと感じるのはわずか三日ほどだという。こうしたお話からも、自分を厳しく律しようとする栗生さんの人柄がにじみ出てくる。

「以前は大量生産された人形がもてはやされました。しかし素材がプラスチックなどであったために、環境保護にすぐわなくなってきました。私が作る人形はいつかは土にかえる物を素材としています。そのため最近では、こうした手作業で作る人形が見直されてきています。」  
生産者は自分の作るものに責任を持たなくてはならない。自分が作ったものが環境を壊すことがあってはならないと栗生さんは力説される。

最後に、これからの人形作りにかける思いをお伺いした。

「もともと人形は昔の侍や女性の夢を形として作り上げてきたもの。いわば日本人が持つ男らしさ女らしさという夢だったので。それを失うことがないように伝えていければと思います。」

機械化が進み、情愛が薄れてきている世の中で、人間的なものを残していこうとする栗生さん。そのお話は便利さばかりを追求し、人の温かさを忘れがちな我々に、大きな警鐘を与えてくれている。

氏名 あおう まさき  
生年月日 昭和十六年四月六日  
住所 藤川町市場東町一



案内状作りの授業であった。もう一つは、隣接する中学校の生徒との交流授業として、地元の産物であるなすを使った調理実習を行った体験を作文に書く授業であった。調理実習の楽しかったことや大変に思ったことを、なす作りを見学させていたのだいた農家の方や家族に伝えようと思図されたものであった。

国語科では、「伝え合う力」の育成を目指し、それを具現化していくことが今、求められている。手作りの案内状を手にしたときの期待感や、なすを子供たちがおいしく食べたことを知らされた大人たちの喜びを想像すると、子供たちが伝えたものの大いなる力を感じる。また、青少年による社会問題に心痛める昨今であるが、「お兄ちゃん、ありがとう」の思いを伝えたい心と、それを受け止めて顔をほころばせる中学生を見ると、そのようなお互いの経験の積み重ねが、子供たちの「伝え合う力」を大きく育て、分かり合える社会を築いていくものと思われる。

【推薦する専門書】

『国語科を核にする総合的学習を創る』 明治図書

『新学習指導要領に立つ国語科の改革』 明治図書



# 今が観察のチャンス！



## 岡崎市の鳥 ハクセキレイ



葵博で活躍したピー子  
(手塚治虫氏デザイン)



▲ひとときの休息



▲汚れや寄生虫を落とす水浴び

大きな工場が発見された。また、最近では上和田町の街路樹にも数多く集まっているのが確認されている。これらのねぐらには、夜でも明るく、近くに人間がいるという共通点がある。これは、天敵であるタカやカラスから身を守るための知恵だと考えられている。

寒さが厳しくなるこの時期、ハクセキレイは運動場や田畑など、わたしたちの身近なところで観察できる。今が観察のチャンス。ちよっと空を見上げてみよう。チチン、チチンと鳴きながら、愛らしく飛び交う姿に出会えるかもしれない。

近年、矢作橋以外の集団ねぐらとして、北野町にある大きな工場が発見された。また、最近では上和田町の街路樹にも数多く集まっているのが確認されている。これらのねぐらには、夜でも明るく、近くに人間がいるという共通点がある。これは、天敵であるタカやカラスから身を守るための知恵だと考えられている。

寒さが厳しくなるこの時期、ハクセキレイは運動場や田畑など、わたしたちの身近なところで観察できる。今が観察のチャンス。ちよっと空を見上げてみよう。チチン、チチンと鳴きながら、愛らしく飛び交う姿に出会えるかもしれない。

冬の夕暮れ、矢作橋辺りの川原に降りてみると、水辺で水浴びや羽づくろいをする鳥を見ることが出来る。チチン、チチンと鳴きながら波形を描いて飛ぶ姿は、愛らしくおどけているようにも見える。この鳥が「岡崎市の鳥」ハクセキレイである。

ハクセキレイが「岡崎市の鳥」に指定されたのは、一九七四年である。姿が美しく、古くから市民に親しまれてきたこと。また、矢作橋が集団ねぐらとしては日本でも類をみないほどスケールの大きいものであったことなどが、その理由であった。ハクセキレイは、昼間は単独で田畑や河川などでえさ採りを行う。そして辺りが薄暗くなると、橋や樹木に集まり、群れで一夜を過ごす。かつては三千羽以上が矢作橋に集まってきたという。

ハクセキレイは渡り鳥で、初秋に北の地方から渡ってくる。そして、翌春北へと戻っていき営巣する。環境庁の標識調査によると、矢作橋に集まるハクセキレイのほとんどは、北海道やサハリンからおよそ数週間かけて矢作橋に帰ってくる事が確認された。遠い北の地から一途に岡崎の地を目指して帰ってくる姿を想像すると、家族のような親しみが感じられる。



▲矢作橋（国道1号線）の集団ねぐら



▲えさ（カゲロウ）をキャッチ



▲岩の上でのくつろぎ



▲えさ場となる田や畑

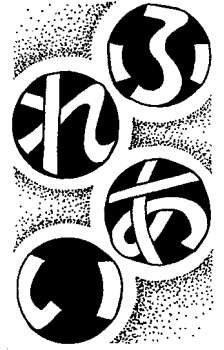


▲足環をつけたハクセキレイの回収地



▲新しい集団ねぐらの街路樹（上和田町）

【写真提供 杉山時雄氏（西三河野鳥の会会長）】



### 心をつなぐひも

大樹寺小学校

鈴木 孝広

「先生、相談があるんだけど。」  
小学校陸上を二日後に控えた昼休みに、A子とB子が、何か言いたげな顔をして私のところへやってきた。

二人は夏休みから一生懸命練習してきた陸上部の部員であるが、残念ながら先日の選考会で補欠になってしまったのである。

「先生、私たち、今度の陸上大会でみんなの気持ちが一つになれるようにひもを編みたいんです。同じ物をたくさん作って、みんなに配ってもいいですか。」

二人は、自分たちのできることはないかを一生懸命話し合っていて決めたという。

「手に縛るとリレーでバトンを渡す時に邪魔になる子も

いるかもしれないから、靴ひもに縛るようにしたら。」とアドバイスした。二人は大喜び。徹夜までしてひもを編み上げた。選手や補欠はもちろん、先生の分まで含めて四十本余りも。選手を前に彼女たちは、

「みんな聞いて。私たちの心が一つになれるようにひもを編んできました。みんなこれをつけて頑張ってください。」と励ました。

ひもをもらった選手は皆うれしそうに靴ひもを固く結び、「優勝するぞ。」という掛け声とともに大会に臨んだ。

ひもとひもとを結ぶ大樹寺小陸上部の和(輪)、が男女とも総合優勝した原動力になった。



## 師弟同行

### 引力の実験

岩津小学校

今井 久子

先生には中学二、三年と担任をしていたきました。先生や級友と過ごした二年間の思い出は、先生が撮ってくださったたくさん写真と学級独自の卒業文集、そして私の心の中に一杯詰まっています。

二年の当初は、先生もあきれられるほど個性的というか自分勝手な生徒の集まりでした。そんな私たちに「どう考え、どう行動するか」といつも問いかけてくださいました。時には「引力の実験」と名づけられた厳しいご指導もありました。生意気だった私は反発したこともありましたが、しかし厳しい中にも既成概念にとらわれない自由な考えと、一



をされ、そっぽを向かれた。何が教育なのか考え、学級指導が原点であることを再確認させられた出来事であった。ちようど竜海中に転動したのを機会に私は学級づくり力を注ぐことにした。

人一人の個性にあった粘り強いご指導によって徐々に素直になれました。皆の気持ちを寄せ合ったクリスマス会。学校美化運動に率先して参加したことなど、学級独自の行事を重ねるごとに、自分勝手な行動は減り、クラスはまとまっていききました。そして私も変わりました。

そのころの竜海中は自由な空気に満ちていたのも幸いした。よしやるぞと取り組んだのはよかつたが、これが大変なクラスだった。特に女子がばらばらで、これをどうするか苦心した。なんとか二年生の一年間でまとめなければと思いい、リーダーであった今井さんたちを呼んで、何度も話し合った。そして、三学期になつてやっと心が通うところまでこぎ着けた。このときの安堵の気持ちは今も忘れられない。

### 学級こそ原点

元岩津小学校教務主任

中根 洋

美川中での私は、目が研究発表に向いていた。特に理科の発表では一応の成果に満足していた。ところが学級の生徒からは「ノー」の意志表示

こうして三年生になり、次は進路(進学)指導。これはうまくいって学年最低と目されていたクラスがトップの学級と肩を並べることができた。私はこれまでの反省から中学校での学級づくりは二年間が必要だと考えている。



お知らせ



◆岡崎市教育委員会名簿

委員 長 鈴木 聡一  
 同職務代理者 杉浦 壽康  
 委員 員 仲井 さち  
 委員 員 寺部 暁

教育 長 藤井 孝弘

◆平成十二年度全国自作視聴覚教材コンクール

・小学校部門 入選  
 「グチョウ牧場―畜産の新しい試み」  
 「地域に根ざした放送局」  
 ・中学校部門 優秀賞  
 「駒立のぶどう農園」

「指標生物―水質の証人たち」  
 ・中学校部門 入選

「Joyful English―現在完了形」  
 ・社会教育部門 入選

「カワバタモロコを守る」

◆第十七回伝統的工芸品月間作文コンクール

伝統的工芸品産業振興協会会長賞  
 新香山 三年 高橋 保

第39回岡崎市小学校陸上競技大会

総合	優勝	2位	3位
男子	大樹寺	矢作西	岩津
女子	大樹寺	井田	六ツ美北
種目	選手名	校名	記録
5年・100m	原田 嗣司	生 平	14"1
100m	加藤 駿	根 石	13"1
80mハードル	原田 貴大	北 野	☆12"0
1000m	鈴木 慶輝	矢作東	3'04"1
走り幅跳び	羽間 圭佑	梅 園	4m58
走り高跳び	橋本 良	大樹寺	1m45
ソフトボール投げ	萩原 利則	大樹寺	67m68
400mR	岩附・近藤 萩原・伊豫田	大樹寺	54"5
5年・100m	西村 悠	竜美丘	14"4
100m	伊藤 友希	三 島	14"1
80mハードル	酒井 翠	六 北	13"9
1000m	永谷 夏美	連 尺	3'29"0
走り幅跳び	猪飼 千恵子	愛 宕	3m97
走り高跳び	松井 智恵美	大樹寺	1m30
ソフトボール投げ	柵木 悠	男 川	52m75
400mR	松井・柴田 河内・小幡	大樹寺	57"7

☆大会新記録

第33回岡崎市中学校新人総合体育大会

種目	性	優勝	2位	3位
陸上競技	男	東海	北	六ツ美
	女	矢作北	六ツ美	南
バスケットボール	男	矢作北	竜海	葵 城北
	女	竜海	南	岩津 美川
バレーボール	男	矢作北	北	竜南 南
	女	北	矢作北	岩津 六ツ美
ソフトテニス	男	福岡	常磐	六美北 甲山
	女	常磐	福岡	六美北 矢作
卓球	男	矢作北	六美北	矢作 竜海
	女	六美北	南	常磐 矢作
体操競技	女	東海	矢作北	南
	女	東海	矢作	竜海
剣道	男	常磐	南	矢作 城北
	女	南	六美北	甲山 東海
ハンドボール	男	葵	美川	竜南 六ツ美
	女	六美北	竜南	美川
軟式野球	男	六ツ美	城北	竜南 竜海
	女	城北	矢作北	北 矢作
柔道	男	甲山	竜海	竜南 六美北
	女	竜南	矢作	甲山
サッカー	男	北	矢作北	新香山 甲山
	男	竜海	矢作	甲山
水泳	男	竜海	矢作北	城北
	女	竜海	矢作北	城北

◆第三十三回貯蓄の作文

秀作 毎日中学生新聞賞

◆第五十回全国小・中学校作文コンクール 県審査

最優秀 河合中 三年 島 彩子  
 優秀 緑丘小 五年 庄田 陸平  
 優秀 六ッ帯 三年 山本 久絵  
 優秀 城北中 三年 中野 仁美

◆第二十六回私のアイデア貯金箱コンクール

郵政大臣賞  
 文部大臣奨励賞  
 連尺小 六年 赤松 史織  
 ・同声の部  
 金賞 文部大臣奨励賞

第44回愛知県統計グラフコンクール

小学校1年～2年の部 金賞

志村 知紀	三 島 小	1年
蟹江 遥	矢作東小	2年
鈴木 萌未	矢作東小	2年
織田 淳暉	連 尺 小	2年

小学校3年～4年の部 金賞

石川 亜美	秦 梨 小	4年
五味 和樹	三 島 小	3年
南谷 麗	三 島 小	3年
小原 章裕	矢作東小	3年
森下 藍	矢作東小	3年

小学校5年～6年の部 金賞

荒井 浩介	竜美丘小	6年
植田 千紘	竜美丘小	6年
倉地 真衣	竜美丘小	4年
倉地 雄大	竜美丘小	6年
見並 克俊	竜美丘小	5年
山下 恵里奈	竜美丘小	6年

中学生の部 金賞

犬塚 圭都	六ツ美北中	1年
西島 千春	竜海 中	1年
鈴木 菜穂子	竜海 中	2年
荒井 俊介	竜海 中	2年
松井 絢子	竜海 中	3年
見並 良治	竜海 中	3年

パソコンの部 金賞

千賀 麻美	城北 中	3年
山崎 裕希	城北 中	3年
三田 友美	竜美丘小	6年
酒井 映名	美川 中	3年
丸目 直嗣	美川 中	3年



▲市統計グラフコンクール市長賞受賞作品

・カ  
ツ  
ト  
生  
平  
小  
小  
林  
彰  
一



# 戦火の合間の運動会 (昭和19年)



写真提供 広幡幼稚園

戦時下においても、学芸会とならび運動会は楽しい行事の一つであった。写真は、昭和十九年十月廣幡戦時保育所で行われた運動会である。綱引き・玉入れなど今も変わらぬ競技もあったが、「僕は軍人」「仲良し戦友」「防空遊び」など、戦時下ならではの遊戯や競技も行われた。プログラムには「雨天及び警報発令の場合は中止」とある。

当時の日誌には「警戒警報発令、数分後空襲警報発令」などの文字が日々記録されており、緊迫した中での運動会であったに違いない。



- \*人間の絆 童門 冬二 ￥1400  
青春出版社
- \*あふれた愛 天童 荒太 ￥1400  
集英社
- \*向学心 谷沢 永一 ￥1100  
新潮選書
- \*クローズアップ現代 NHK 出版制作班 ￥1600  
NHK 出版

\*日本の危機2 櫻井よしこ ￥1600  
新潮社

テレビで教育問題を取り上げれば、視聴率はまず下がらないという。

ニュース解説を担当する著者が、教育に関して力説してやまないこと、それは問題の元凶がいびつな戦後民主主義にあるという。自己主張はしても、他への配慮や自己責任を認識できない子供を生んだその原因について、厳しくかつ的確に追及している。

綿密で徹底した取材が、著者の迫力ある主張に一層の磨きをかけて、読む者に迫ってくる。

落ち葉が通学路を鮮やかに染める。白い息を吐きながら子どもたちの明るい声があつた。この子どもたちにはどんな思いが残つたのだろうか。そして、今年もあと一か月。いよいよ二十一世紀に向けてのカウントダウンが始まる。

少年犯罪の増加は憂慮すべき問題である。最近では少年法の改定によって抑制しようとする動きが見られるようになってきた。しかし、少年たちの心の崩壊は法によって止められるものではない。今こそ心の教育を見つめ直す時なのではないのだろうか。

## シ オ ス ア

「あんたがたどこさ肥後さ…」懐かしいまりつき歌に誘われ、運動場の片隅に目をやる。数人の女の子が楽しそうに遊んでいた。

祖母から教えてもらったという昔遊びに興じる子供たち。世代を超えた交流と伝えるべきものを思う。

スズメより少し大きな鳥が、元気に登校する子供たちの傍らを二羽、三羽とえさ場に向かって飛んでいく。朝の陽光をあびて飛ぶハクセキレイの美しい姿。冷たくりんとした空気の中でチチン、チチンと響くその声は、子供の声と重なって、わたしたちの心を和ませてくれる。